

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要 (平成 15 年 4 月現在)

学校名	京都市立翔鸞小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	1	1	1	1	2		8	13
児童数	46	33	40	39	40	47		245	

研究の概要

1. 研究主題

「人・くらし・社会を見つめ考える子を目指して」

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～2年...生活科 (教科の特性から、社会科で必要な能力面を十分に培うことができる)
 3～6年...社会科 (児童の実態から、人間関係能力や、社会性などが十分育っていないということから、公民的な資質や社会の仕組みなどを学ぶことのできる社会科を研究教科として取り上げた。

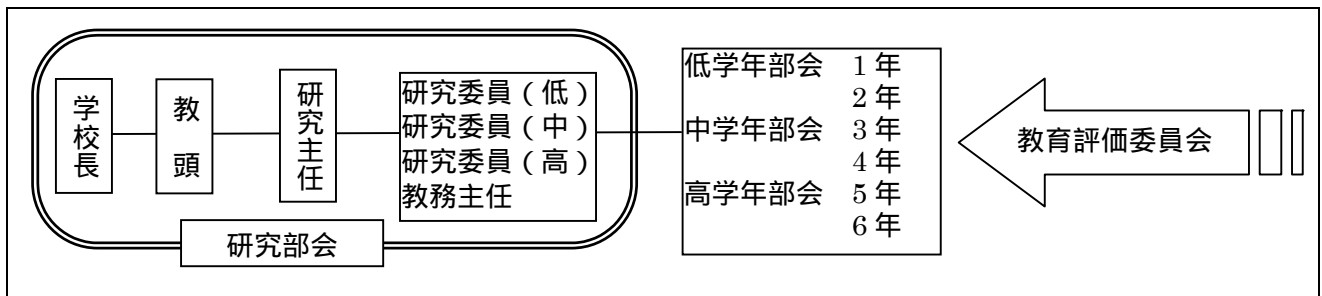
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	
----------------	--

平成 15 年度	<p>テーマ... 基礎・基本の確実な定着。 教材の開発や出会わせ方，資料選択の工夫。 学習活動を深めるための交流のあり方。 指導に生かす評価の在り方。</p> <p>見通し...基礎・基本の確実な定着が，多様な追究やものの見方，考え方を育てることにつながる。 学習問題の工夫によって，学習意欲が高まり，多様な追究活動を期待できる。 多様な交流によって，自分の考えを深めることができる。 適切な評価規準を設定することで，指導の方向性を明確にできる。</p> <p>内 容...授業実践により，各学年での取組の検証を行う。 研究発表によって，自校の取組を公開し，成果と課題を明確にしていく。</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ... 調べて考える社会科を進めるための，学習計画作成。 考えを深めるための交流のあり方。 指導に生かす評価の在り方。</p> <p>見通し...調べて考える学習を支えるための必要な知識や技能が定着すると，学力の質が向上する。 学習計画の中で考える時間の保障と考える内容を明確にして交流の質を高めることで，社会を見る目が育つ。 適切な評価と指導によって，児童の学習に深まりが見られる。</p> <p>内 容...授業実践によって仮説を検証し，研究発表などでその成果を明らかにする。 単元目標に即した学習計画が作成できるように，指導案の中に単元想図を表し，単元全体のイメージ化を図る。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

導入に工夫を行うことで、児童の学習への意欲の高まりが見られる。また、学習問題を練り上げることで、児童の学習にも深まりを感じた。

児童への評価を具体的な姿で表すことで、評価内容に客観性が見られ、評価を指導に活かすことができつつある。

2. 今後の課題

調べることはできても、調べたことから考えるような学習場面では、お互いの考えを深め合うということがまだまだ不十分である。交流の場面では、他者の考えを参考にして自分の思考を再構築するということを今後も取り組んでいきたい。

学力把握のための学校としての取組

本年度末に、児童へ研究教科についてのアンケートをとり、次年度の取組につなげる。また、市の教科別の学力調査結果を参考にしながら、観点ごとの児童の学力を考察し、取組の課題と成果を明らかにする。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表を行い、自校の取組の是非を外部に広く問いたい。市内のフロンティアスクール指定校との交流を図り、お互いの研究成果を共有すると共に、互いの校内授業研究会への参加を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること、(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
- 13～18学級 19～24学級
- 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
- 生活 音楽 図画工作 家庭
- 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無